

**SBSカップ国際ユースサッカー(日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催、エコパハウス共催)は14日、エコパスタジアムで最終日の2試合を行った。U-19(19歳以下)スロバキア代表が1-0でU-19日本代表を下し、3戦全勝(1PK勝ち)で優勝した。後半3分、ヘルツが決めた1点を守り切った。日本は勝ち点1で最下位。静岡ユースはU-19コスタリカに1-0で競り勝ち、2位となった。大会最優秀選手はU-19スロバキア代表のヘルツが選ばれた。**

**最終日**

**40th SBS CUP INTERNATIONAL YOUTH SOCCER 2016 SBSCUP 国際ユースサッカー**

	スロバキア	静岡	岡	コスタリカ	日	本	勝ち点
スロバキア		0-0 (PK5-4)	2-0	1-0	1-0	8	
静岡	0-0 (PK4-5)		1-0	1-1 (PK4-2)	6		
コスタリカ	0-2	0-1		1-0	3		
日	0-1	1-1 (PK2-4)	0-1		1		

きのうの結果  
静岡 1-0 コスタリカ  
スロバキア 1-0 日本  
▽最終順位 ① U-19スロバキア代表 勝ち点8 ② 静岡ユース6 ③ U-19コスタリカ代表3 ④ U-19日本代表1

**静岡競り勝ち2位**



静岡ユース-U-19コスタリカ代表 前半31分、静岡ユースの平墳(左)がシュートを決める=エコパスタジアム

**平墳、度肝抜くロングシュート**

直前の試合でスロバキアが勝ち、優勝の可能性はなくなったが、静岡ユースはコスタリカを上回る躍動感を見せて2位をキープした。最終、相手にペーを渡さずに前半の1点を切り切り、岩監督(浜松湖南高教)は「強いモチベーションで戦い、素晴らしい内容だった」と選手の頑張りをたたえた。観衆の度肝を抜く弾丸シュートがゴールに突き刺さった。前半31分、相手ボールを奪った若山のパスを受けた平墳が、左足を振り抜いた約30歳のロングシュート。「得意な角度と距離」と振り返る先制弾は強烈な印象を残した。

3試合を通じ、指揮官は「決して相手に当たり負けせず、個人技も劣っていない」と自己評価し、「経験値や与えたプレッシャーはあと一歩。各国代表ともまれて成長したのでは」と将来の日本代表候補たちにエールを送った。

昨年出場した立田は体を張ってDFラインを統率し、チームに貢献した。「自分の長所だけでなく、仲間のいい所を引き出さなければ」と主将らしく落ち着いたプレーを貫いた。東京五輪を目指す18歳は「危機感を持つて取り組む4年間になる」とさらなる成長を約束した。(萩原正司)

静岡ユース 1-0 コスタリカ  
【得点者】平墳(若山)  
【評】静岡ユースは前線から運動した守備でコスタリカに圧力をかけ、清水颯、若山がシュートを決めた。前半29分に立て続けに決定機をつくと、31分には若山のパスカットから、平墳のミドルシュートで先制した。後半は押し込まれる時間を軸にシュートを打たせなかった。



U-19日本代表-U-19スロバキア代表 前半、シュートを放つU-19日本代表の針谷(16) =エコパスタジアム

**日本3戦全敗最下位**

**ボール支配も得点奪えず**

【評】日本はスロバキアの堅い守備を最後まで崩せなかった。前半から積極的にボールを支配し、針谷のミドルや浜のヘディングシュートなどで得点を狙うが精度を欠いた。スロバキアは最終ラインを高く保ち、スペースを与えなかった。後半3分、スロバキアのFKのこぼれ球をヘルツがループで決めて先制。日本は終盤に2度の決定機を迎えたが、シュートは枠を外れた。

ボールを支配しながら得点を奪えない典型的な負けパターンだった。「攻めているようで、結果は相手の狙い通りの試合だった」と内山監督。日本サッカー界で続いてきた決定力不足を露呈し、日本は3戦全敗で大会を終えた。ゴール前に進入しても守備を固めたスロバキアにこごとくシュートを防がれた。「狭い局面での精度が低い」と内山監督。屈強な海外勢と戦うための課題をあらためて突きつけられた。その中で存在感を発揮したのが、代表初選出のMF針谷だ。中盤で攻撃を組み立て、効果的な縦パスを何度も見せた。「思った以上に自分のプレーが通用した」。代表定着に向けたアピールに成功した。

5大会ぶりの出場を狙うU-20(20歳以下)ワールドカップ(W杯)の最終予選が10月に始まる。今大会は新戦力の発掘を狙い、高校3年生を中心に集めた。合宿を通じて選手を吟味した内山監督は「可能性を感じる選手はいいた」と手応えを語る。3試合で1得点。2年連続の最下位。散々な結果に終わった大会でも収穫はあった。(岡田拓也)

**スロバキア 屈強守備陣が仕事**

PK勝ちでも優勝が決まる一戦で、スロバキアの屈強な守備陣が「計画通り」(マラチンスキー監督)に仕事をした。陣形をコンパクトに保ち、日本に決定機を与えない。後半3分にセットプレーから挙げた1点を危なげなく守り切った。4人の平均身長が190センチに迫る最終ラインと、180センチ後半がずらりと並ぶ中盤。そのぶ厚いブロックで日本の攻撃をはね返した。低い位置では相手にボールを持たせても、攻撃の起点になる縦パスには素早く体を寄せる。日本が攻撃のスピードを上げるためのスペースを消した。

人口540万人の小国だが、フル代表は国際サッカー連盟(FIFA)ランキング24位の強豪。東京五輪世代の日本に「世界基準」のプレーを見せた。指揮官は「若い選手がいい経験をした。キャリアの第一歩になる」と満足そうに振り返った。(山本真)